

うれしい! たのしい! だいすき! で生きる。

F「今回のテーマはキャラクターです!」

M「ゆるキャラとかそういうもの? ひこ●ゃんとか、ふ●っしーとか、ね●~るくんとか」

F「伏字多い! ご当地キャラをあげるなら、まず、はば●んとか、キッピー、ハッピー、チャッピーを出してあげてくださいよ!」

T「3月には、図書館の35周年記念でキッピー、ハッピー、チャッピーが来てくれましたね」

M「にぎやかだったわね。Tさん! ここでクイズです! ハッピーの好きな食べ物は?」

T「はい、えっと、三田肉とビールです。お肉を食べながらビールなんて最高ね! って三田市のホームページで言っていました」

F「ニクシヨクケイ……」



M「面白くていいでしょうが。忘れないでしょ。」

F「たしかに。最近、『●たらく●胞』みたいに何でもキャラクターにして説明しているのが多い気がします。天文キャラクター図鑑や鉱物キャラクター図鑑などいろいろありました」

T「中高生のときにあれば、もっと覚えやすかったのに……」

F「今の中高生に、ガンガン推していきましょう! そういえば、サ●リオのホームページを見て、ポム●ム●ンってゴールデンレトリバーだと知ったんです。Mさんご存じでした?」

M「なんで急にそれを調べようと思ったのよ」

F「それは秘密です」

T「なぜ!?!」

M「よくわからない秘密ねえ。ゴールデンレトリバーの子たちは、うれしい、たのしい、だいすき、で生きてるようなものよ」

F「え、人(犬)生バラ色……」

T「そのメンタルほしいです」

M「そういう性格とかもキャラクターって言ったりするわよね」

F「もちろん、個性的な登場人物が活躍する物語も展示しますよ!」

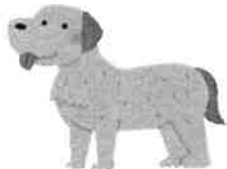
キーワードは【うれしい、たのしい、だいすき】です!」

M「そうそう、ホンダラケも去年10周年だったし」

F&T「え!? 去年!?!」

M「うれしいたのしいでしょうが。11年目も頑張るわよ!」

F&T「だ、だいすき!」



←QRコードでも
アクセスできます

インスタグラム公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>

ホンダラケ

YA
だよ!

2025.4.1

キャラクター大集合

はじめましてのかたもそうでないかたも、はい! 注目!
本には、おもしろいやつらがいっぱいだよ☆

『妖怪がやってくる』

佐々木高弘/著 岩波書店 2021年刊



388.1/21

日本でキャラクターとして広く知られてきたものといえば、妖怪! 古くは絵巻物や文献、今でもマンガやアニメによく登場していますよね。

そんな妖怪はどこからやってきたのか? そもそも妖怪とはどんな存在なのか? 『続日本紀』に記されたたった一行から妖怪の存在を探り当てていく著者の考察が好奇心をくすぐります。

この本を読めば、妖怪が登場する物語をより深く楽しめるようになるでしょう。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「講談社文庫」、背表紙がカラフル!!
今回ジャンルは自由、中高生のオススメがあつまりました。

『津軽双花』 葉室麟／著 講談社 2016年刊



F/ハム

関ヶ原の戦いから13年。石田三成の娘である辰姫が津軽家へと嫁いだ。仲睦まじく暮らす辰姫と信枚であったが、その3年後、徳川家康の養女の満天姫が正室として嫁いでくることとなる。信枚をめぐり、家康の養女と三成の娘が繰り広げる2人の姫の戦いの行方は？ 女の関ヶ原が今、始まる!!

P.N. シマエナガ(高校2年生)

新着図書 Pick Up

『ささやきの島』

フランシス・ハーディング／著
エミリー・グラヴェット／絵 児玉敦子／訳
東京創元社 2024年刊



933/ハデ

14歳のマイロの父親は渡し守。ただし、運ぶものは死者の魂。マイロの住むマーランクでは、人が死ぬとすぐにその靴を渡し守に渡さなければならない。死者が自分の靴を見つけてしまうと、島中をさまよい歩くようになるからだ。ある日、娘の死を認めようとしないう領主が娘の靴を取り返しにきた。抵抗した父は殺され、残されたマイロは父の代わりに死者の魂を運ぶことになるのだが…。「死」がテーマではありますが、青を基調とした挿絵が多く挿入されていて、おとぎ話のような美しさを感じることができそうです。

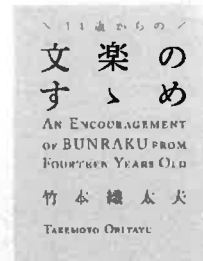
「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『14歳からの文楽のすゝめ』

竹本織太夫／著 実業之日本社 2022年刊

「文楽(ぶんらく)」は人形浄瑠璃文楽のことで、江戸時代から続く日本を代表する伝統芸能のひとつです。この本には文楽に関わる基礎知識や職業の解説はもちろん、文楽への愛を語ってくれる人々が登場します。修羅場恋愛話や熱い友情話など実際にあった出来事をもとにした作品が多い文楽には、わたしたちが感じたことのあるようなリアルな悩みも描かれています。いつもは身近に感じない文化でも、知ってみれば自分自身に影響や刺激を与えてくれるものって意外と多いのです。文楽もきっとその1つ! 気になり始めたあなたにぴったりな1冊です。



777.1/22

難しいと思われるけれど、実は面白い
名作があるから読んでみてほしいんです。

『黒蜥蜴』 江戸川乱歩／著 春陽堂書店 2015年刊

美貌の女盗賊「黒蜥蜴」と名探偵・明智小五郎との攻防を書いた少し不気味で少しエロチックで耽美的なニオイがぷんぷんする作品。なんといっても黒蜥蜴のキャラクターが濃い! その左腕に黒い蜥蜴の入れ墨があることから「黒蜥蜴」と呼ばれていますが、その正体は最後まで明かされません。美しいものが大好きで狙った獲物は必ず手に入れたい黒蜥蜴。くるくると変装し、明智どころか読者さえ翻弄してしまう作品です。



F/エド